平成３０年度大学コンソーシアム沖縄 運営委員会（第２回）議事概要

○日　時：平成３０年１０月３１日（水）１５：３０～１７：００
○場　所：琉球大学　大学本部棟　２階　第一研修室
○出席者：新田　早苗 事務局長（琉球大学総合企画戦略部長）、金城　徹 委員（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課長、中田　竜次 委員（沖縄キリスト教学院大学・短期大学総務課長）、田代　真紀 委員（沖縄大学総務課長）、島袋　常義 委員（沖縄女子短期大学事務局次長）、比嘉　美昭 委員（沖縄国際大学事務局総務課長）、渡久地　寛 委員（沖縄県立芸術大学総務課主査）、荻堂　盛淳 委員（名桜大学総務課長）、田中　克代 委員（沖縄県立看護大学総務課長）、西原　盛浩 代理出席（沖縄工業高等専門学校総務課課長補佐）、照喜名　一 委員（沖縄科学技術大学院大学技術開発ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ R&D 担当審議役）
○陪席者：大城　光雄（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課企画係長）

【要旨】
議題１．大学コンソーシアム沖縄の今後の活動について
① 新田事務局長から今後の総会への提案までの流れについて説明があった。
② 各運営委員か資料１に基づき大学コンソーシアム沖縄への要望や意見等について説明があった
③ 各運営委員からの説明後、意見交換を行った
④ 新田事務局長から、資料２～資料４に基づき、政府が進める大学等の機能の分担及び地域連携プラットフォーム（仮称）等について説明があった。

【新田事務局長からの今後の総会への提案までの流れについての説明】
・大学コンソーシアム沖縄として、どのようなことを行うのか、イメージとしては、例えばパンフレットにまとめられるようなやれることを事項として出して、それに優先順位をつけてまとめたものを想定している。また、大学コンソーシアム沖縄には、現在、規定は定款のみしかない状況である。現在、琉球大学において就業規則をはじめ、人事や会計関係規則等の案づくりを進めているところである。この２つについて来年１月か２月の総会に提案したいと考えている。そのような機能をしっかりと整備する必要があると認識している。

【意見交換の概要】
（事務局長）
・これまで話がでてきた各大学からの要望や意見を踏まえ、これは推したいと思うものがあれば、第一候補、第二候補を挙げていただきたい。

（沖縄大学）
・単位互換と FD・SD である。

（沖縄キリスト教学院大学・短期大学）
・単位互換が、一番学生への還元があるかと思う。また FD・SD としては、個人的には SD が大学には課題が多くあると感じている。個別で大学がやっていることを情報の交換でもかなり楽になると思う。

県外からの情報もみんなで共有できればと思う。

（沖縄女子短期大学）
・FD・SD と単位互換である。

（沖縄国際大学）
・FD・SD だと思う。また、県外での合同説明会である。県外での説明会では実際にかなり少ない参加者だったと聞く、合同で行うと沖縄にもっと注目を集めてもらえるかと思う。

（沖縄県立芸術大学）
・FD・SD が良い。

（名桜大学）
・FD・SD のうち、特に SD をやりたい。しかし学生の視点からは、単位互換だと思う。また、本学の教員と既卒の学生が携わっているが、ウチナーンチュサミットの学生サミットを毎年行っているので、大学コンソーシアム沖縄に関わることができるのではないかと思う。

（沖縄県立看護大学）
・本学は学生が忙しいという側面がある。地域貢献としての公開講座を大学間がコラボして実施するのは直ぐにでもできるものと考えている。色々な大学の特色にあったテーマだと、県民もよろこぶのではないかと思う。

（沖縄工業高等専門学校）
・FD・SD が良い。高専としても弱い部分である。

（沖縄科学技術大学院大学）
・名桜大学からも話が出ていたが、毎年１０月３０日は、沖縄ウチナーンチュの日であり、その日に合わせてウチナーンチュサミットを開催している。それに関わることができるのではないか。沖縄県も予算をかけて実施している。
今、何をすべきなのかを議論しているが、事務局長がおっしゃるように優先順位があり、５年スパンのタイムスケジュールを大学コンソーシアム沖縄として作成し、それを総会に提案していただきたい。FD・SD はやろうと思ったら直ぐにでもできるが、５年スパンの中でも最初からでもできるが、単位互換は、ハードルが高く、来年からすぐにできるもではない。数年先に目標をつくり、それに向かって実施していく、そのようなタイムスケジュールが必要と考える。

（事務局長）
・FD・SD の共通化は本学の学長と事務局長も望んでいる事柄で当初からできるのではないかと言っていたが、お互いがある程度見える関係にならないと難しい。これまでは、各大学の設置形態が異なっていたために、何が共通のテーマなのかが見つけにくかった。これからは働き方改革による雇用の問題と組織リスク、教育の質の保証の問題に対するノウハウを共通化することもできるかと思う。例えば、OIST では、文科省などの公文書を英語翻訳している。それぞれの大学が英文化することは難しいので、

それを他の大学の外国人への提供なども可能かと思う。

今回、FD・SD と学生交流、学生募集の件について、何かしらのタマを琉球大学で創りたいと思う。何かできるのか、何が緊急なのかなどを図示した、マトリックスを琉球大学で作成するので、その表の中で、各大学で何ができるのか、埋められるのかを検討していただきたい。３年間のスケジュールを作りたい。それを宿題とさせていただきたいので是非、ご協力をお願いしたい。

大学コンソーシアム沖縄として大きなものは地域貢献であり、地域に貢献する人材育成をみんなでどのようにできるのか、それには地域性、多様性、国際性を一緒になって成り立つ大学コンソーシアム沖縄のコンセプトとしてできないかと思う。この点で、１０月３０日のウチナーンチュの日のサミットや学生達が取り組んでいるウチナーンチュサミットも含めて、コンソーシアムの取組という形でやると沖縄にあるコンソーシアムとしてユニークなものとなるのではないか。

（沖縄科学技術大学院大学）

・各教員の巻き込みについては、各大学とも苦慮している状況である。それの手段として、これまでの実績と今後何をやるのかを記載した A4 一枚程度のパンフレットを作成してもらいたい。それを総会で諮り承認をもらい、今までのやらされ感ではなく、積極的に大学コンソーシアム沖縄がやるんだと、大学コンソーシアム沖縄が変わったというメッセージを出してもらいたい。それを学内に持ち帰って、教授会において説明してもらいたい。形式的でもあれ、やった方が今後、異論を唱える方が出たときに、皆で合意されたものとして対抗することができると思う。

（事務局長）

・積極的に関わる教員のリスト化も今後必要かと思う。実際に教員を巻き込んだワーキングの提案は３月までにはできると思うが、実際には４月以降に教員には参画してもらえるかと思う。事務的に実施できる SD はこの運営委員会から始めることはできるかと思う。

【決定事項】

・琉球大学がマトリックスを作成するので、それに対してできることを埋めてもらう。その際、できそうなこと、できるといいなというアイデアまでを含めてよい。事前集約して、次回の運営委員会において議論することとする。

（以上）